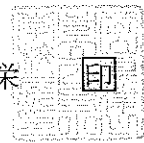


(様式)

平成25年度 津山市立広戸小学校 学校評価書

校長 土居 和栄



1 自己評価

I 評価結果(別紙)

概ね良い評価をいただいた。

II 分析・改善方策

- ① 本校独自の活動(暗唱・課題作文・くり返しテスト・学年課題・縦割り班活動等)を全職員が協力して継続することが出来た。暗唱、検定、学年課題には積極的に取り組んだが、けん玉や集会等マンネリに陥りやすい取り組みもあり、学級での意欲づけや働きかけが必要である。
- ② 水曜日の『輝きタイム』は漢字・計算の時間として定着した。児童は漢字・計算の力はかなりついているが、活用力に課題がある。来年度は、授業改善も含めて、短時間でも放課後の学力補充に取り組む。
- ③ 家庭学習については、手引きを配布して呼びかけているが、今後は学習時間の管理や自主学習に取り組ませたい。
- ④ 生活習慣については、児童への指導や保護者への働きかけは積極的に行っているが、改善につながらない。保小中の連携を深めて効果的な取組を考えていく。
- ⑤ 地域内外のボランティアの方と、多くの交流や体験活動が実施できたので、来年度も続けていきたい。

2 学校関係者評価委員会

牧 利明(勝北地区連合町内会広戸東支部長) 植月 寛(日本原老人クラブ会長)
堀江政由(勝北地区連合町内会広戸西支部長) 杉浦保男(勝北地区民生児童委員協議会会長)
山本 倭(広戸地区教育振興会会長) 加田英樹(本校PTA会長)

3 学校関係者評価

- 厳しく自己評価しているが、学校はよくやっている。
- 自分をアピールできる集会や暗唱などあるのは良いことだ。子どもたちが自信と学力を付けるよう、輝きプランは大変だと思うが方法を考えながら続けて欲しい。
- 授業中分からないことが気軽に聞けるようにして、力を付けさせて欲しい。
- 親が子どもの時間管理をしっかりして生活リズムを整えるよう、保護者と十分話をすすめて欲しい。ゲームばかりだと、社会に出てからが心配だ。
- 学校だよりを町内回覧にしたのは良かった。学校の取組の様子や子どもたちの姿を地域の人に知ってもらえる。地域の人子どもたちに関わっていくことが大事だ。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

- 教育活動の計画的実施・・・輝きプランの継続。内容を共通理解して全員で進める。
- 基礎・基本の徹底・・・水曜日昼の「輝きタイム」や放課後の「補充学習タイム」を実施し、基礎・基本の修得を図っていく。
- 授業改善・・・外部講師を招聘して校内研修を充実させる。児童が自分の考えを持ち、伝え合い、つながり合う学習集団を目指して、書く・話す・聞く活動を取り入れていく。
- 保護者・地域との連携強化・・・子どもたちの生活習慣の改善、学習習慣の定着を図る。学校支援地域本部事業を活用し、より一層開かれた学校を目指していく。